

徳島県立博物館  
歴史・文化コレクション

弘法大師空海生誕一二五〇年記念



# 空海と弘法大師信仰

令和5年

4月25日(火)

7月17日(月・祝)



## はじめに

---

平安時代に真言宗を開いた僧である弘法大師空海(774-835)は、日本の歴史上、最も著名な人物の一人でもあります。

また、真言宗に限らず、広く信仰対象となっており、“お大師さん”と呼ばれて親しまれています。四国をほぼ一周する巡礼「四国遍路」は、そうした大師信仰に関する文化の代表といえます。

この展示では、今年が空海の生誕1250年にあたることから、実在した人物である空海や、四国遍路を含む大師信仰について、とくに阿波とのつながりを中心に紹介しています。空海の著作「弁願密二教論巻上」の写本(徳島県指定文化財)など、初公開する資料もありますので、この機会にご覧ください。

(※)「弁願密二教論巻上」の展示期間は、①4月25日～5月14日、②7月4日～17日とします。

## 弘法大師空海の生涯

---

空海は宝亀5年(774)、讃岐(香川県)に生まれました。少年期に都に遊学しましたが、ある僧との出会いをきっかけとして、阿波(徳島県)や土佐(高知県)などで修行に励むようになりました。

延暦23年(804)に出家し、遣唐使船で中国(唐)に留学し、青龍寺の恵果から真言密教を授かりました。大同元年(806)に帰国した後は、真言宗の祖として活躍するとともに、讃岐の満濃池の修築など、社会事業にも尽力しました。文芸や書にも優れていました。

承和2年(835)に高野山(和歌山県)で入滅し、延喜21年(921)、弘法大師号が贈られました。

### 【トピック】徳島県指定文化財 弁願密二教論巻上(竹林院蔵)

弁願密二教論は、空海の著作です。真言密教(密教)と、それ以外の諸宗(顕教)を比較し、密教の優位を主張しています。唐からの帰国後、弘仁6(815)年頃のものと考えられています。

徳島市竹林院の所蔵本は、承安5年(1175)の写本です。最近の研究により、仁和

寺（京都市）の系統のもので、空海の著作の古い写本として貴重であると評価されています。

## 弘法大師信仰

---

空海の入滅から時代が降<sup>くだ</sup>った10世紀末から11世紀、彼が高野山奥の院で生き続けているという入<sup>にゅうじょう</sup>定伝説が定着しました。

これは、末法思想<sup>まっぽうしそ</sup>の流行のもとで広がった仏教の衰退への危機感の中で、弥勒菩薩<sup>みろくぼさつ</sup>による救いを願う信仰と融合しました。その結果、空海と弥勒菩薩が一体的にとらえられるようになりました。

そして、空海の永遠の居所と信じられた高野山や、彼の出身地であり、初期の修行地でもあった四国が重要な土地として注目されていきました。空海をしのいで四国を旅する僧がいたほか、弘法大師信仰の霊場<sup>れいじょう</sup>が現れました。なかでも、讃岐の善通寺<sup>ぜんつうじ</sup>、曼荼羅寺<sup>まんだらじ</sup>、阿波の太龍寺<sup>たいりゅうじ</sup>、土佐の金剛頂寺<sup>こんごうちょうじ</sup>は広く知られていました。

## 【トピック】四国遍路

四国遍路は、弘法大師空海ゆかりとされる霊場<sup>ふだしよ</sup>（札所）八十八か所をたどる巡礼です。

その源流は、平安時代から広まった弘法大師信仰とともに、中世において修行僧や山伏<sup>やまぶし</sup>などが行っていた四国辺地<sup>へち</sup>・辺路<sup>へち(へじ)</sup>の修行（四国の海岸を巡るもの）にあります。

これらの修行は、戦国時代から、民衆も参加する巡礼に変化していき、さらに江戸時代になって、番号と札所の対応した、大師信仰に基づく八十八か所の旅として完成しました。

## 展示資料目録

資料名	所蔵者	年代・指定区分等
弘法大師像	徳島県立博物館	
弘法大師絵札	徳島県立博物館	
弘法大師行状曼荼羅（写真）	原品：長楽寺	原品：天保14年（1843）
三教指帰	安楽寺	元禄10年（1697） 原著：平安時代
三教指帰文筆解知鈔	安楽寺	寛永8年（1631）
三教指帰註刪補	安楽寺	明暦3年（1657）
阿波国大瀧寺所領注進状	太龍寺（徳島県立博物館保管）	康和5年（1103）
続日本後紀	徳島県立博物館	寛政7年（1795） 原著：貞観11年（869）
阿波名所図会	徳島県立博物館	文化11年（1814）
弁頭密二教論巻上	竹林院（徳島県立博物館保管）	承安5年（1175） 原著：弘仁6年（815）頃 徳島県指定文化財
弥勒坐像碑拓本（原品写真とも）	徳島県立博物館 （原品：阿南市福居町所在）	原品：寿永4年（1185） 徳島県指定文化財
名号板碑拓本（原品写真とも）	徳島県立博物館 （原品：高野山奥の院所在）	原品：康栄3年（1344）
高野山細見絵図	徳島県立博物館	文化10年（1813）
四国徧礼霊場記	安楽寺	宝暦2年（1752）
奉納四国中辺路之日記	安楽寺	江戸時代
弘法大師由来	個人（徳島県立博物館保管）	嘉永7年（1854）
八十八ヶ所四国霊験記図会	徳島県立博物館	明治19年（1886）
高群逸枝「お遍路の話」原稿	安楽寺	昭和時代
納経帳	安楽寺	平成28年（2016）658回満願

「弁頭密二教論巻上」の展示期間は、①4月25日～5月14日、②7月4日～17日とします。

## 謝 辞

この展示の開催にあたり、次の各位のご協力をいただきました。  
記してお礼申し上げます。

安楽寺 太龍寺 竹林院 長楽寺  
徳島県文化資源活用課

徳島県立博物館常設展 歴史・文化コレクション

弘法大師空海生誕 1250 年記念 空海と弘法大師信仰

2023 年 4 月 25 日 印刷・発行